

基本理念

検討委員会で検討いただきたいこと

- ①基本理念を第2次教育マスタープランから変更すべきか
- ②－1（継続の場合）「こめられた思い」は見直し（社会・教育環境の変化などの反映）
- ②－2（変更の場合）新たな基本理念案と、それを支える「思い」の検討

参考 第2次教育マスタープラン

子供が育つ 市民が育つ まちも育つ 清瀬の教育

こめられた思い（第2次教育マスタープラン 基本構想 P7から抜粋）

- ・ 市民が相互に教え合い、伝え合うことによって学びを深めることによる学びと育ちの循環型社会を目指すこと
- ・ 地域を基盤としたコミュニティづくりを推進し、清瀬の教育を支えていくこと
- ・ 学校・家庭・地域・行政が自立し役割分担のもと責任を果たしていくこと
- ・ 清瀬が誇る地域資源（ヒト・モノ）を活かすことにより、郷土に対する愛着を醸成すること

社会・教育環境の変化（事務局で検討した例）

つながり

近年、生成AIなど新たな技術の普及により、自由な発想や人とのつながりから学ぶ機会が減ることが懸念されています。
こうした時代だからこそ、地域全体で教育に関わる仕組みを強化し、人とのつながりを通じて問題解決力や多様性への対応力を育むことがより重要です。
保護者や地域住民、企業、行政などさまざまな立場の人々が互いに学び合うことで、知識や経験が相互に循環し、より豊かな学びが広がっていきます。

心の豊かさ、幸福感

少子高齢化が進む中で、子どもたちが問題解決力や学力を伸ばし、心豊かに成長することは、持続可能な社会の重要な基盤です。また、人生100年時代を迎え、年齢を問わず誰もが学び、文化に親しみながら人生を豊かにすることの大切さも増しています。
こうした時代だからこそ、未来を担う子どもの教育と、現在の社会や子どもを支える大人の学びのどちらも重要となっています。
次期計画では、子どもも大人も誰一人取り残さず、地域全体で学びを育み、次の世代へつなげていくことを目指し、教育施策を進めます。